諸雜記綴込 二

服部文庫
イ 17
2187
29

117 牧
2187
29

服部文庫
117
1299
80

117-4

分ケ手ニ成ル事ヲ欠ケ申候ニ付

一

陸地ハ経ヶ崎一帰ヶ浦ヨリ西国ヘ回ル海路ハ
御ケ場ヲ限リ長崎ヘ入港ス大坂ヘ入港ス
向ケ之ハ加賀ヶ崎ヨリ城ヶ浦ヨリ西ヘ

大ケ浦ヨリ海ヲ渡リ山ヶ崎ヨリ海ヲ渡リ
[illegible]ヲ以テ仕ル[illegible]ヲ限リ海ヲ渡リ
山ヶ崎ヨリ[illegible]ヲ境中ヲ高ク[illegible]ヲ高山中ヲ
[illegible]ヲ渡リ[illegible]ヲ山間ヲ一筋ニ[illegible]ヲ
[illegible]ヲ隔テ[illegible]ヲ村ヲ[illegible]ヲ北陽ヲ仕ル事
[illegible]ヲ通ル事ニ[illegible]ヲ又ハ[illegible]ヲ
大抵[illegible]ヲ大ケ[illegible]ヲ西国ヘ[illegible]
[illegible]ヲ必ス西宮ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

東南方長崎場ニ面シ大坂ニ衛ル要害ト
為シ武庫川ニ傍テ西陽路ニ面シ京都ニ衛ル
中央ハ大道ニ地形平坦ナル長崎場京坂ノ
為ニ防衛ノ為ニ設ケタル所ニシテ
中央ニ長崎奉行ノ邸宅アリ地形ハ西ニ路ヲ正
門各堡ニ側門ヲ設ケ太鼓ツヽミ櫓ヲ
仕上ル長崎ハ海ヲ隔ツ村ヲ中ニ陣営ヲ仕立ル上武庫
山ヲ背ニ敷ル方ニ樹ヲ植ル出ル方ニ其所ニ

御城下ヲ上陸相成ル又ハ二西
国筋ヲ経歴ス者ハ長崎ヲ経ル人ハ東西ノ通リ
ヲ武庫川ヲ渡テ長崎ヲ経テ西国ヲ経
ル者ハ武庫川ヲ渡テ長崎ヲ経ル人馬ノ往来
ヲ仕ル人馬ノ常ニ賑ヲ仕ル
ヲ以テ京坂ヲ防ル要害ト
関所ヲ設ル所也
神戸橋ヲ渡ル所ヲ大今ヲ長崎ヲ大

一 御三家御領中ニ而[illegible]紛争有之候
[illegible]事ニ付追[illegible]其節ニ而[illegible]ニ付[illegible]ニ相成候
[illegible]共ニ差出[illegible]
[illegible]一[illegible]極密之[illegible]尾
崎様之御[illegible]ニ付[illegible]高[illegible]
[illegible]其節[illegible]西宮[illegible]
[illegible]御料[illegible]
[illegible]吉村[illegible]丈

[illegible]御料[illegible]
[illegible]一村[illegible]
[illegible]西宮[illegible]村
[illegible]西[illegible]村[illegible]京[illegible]
[illegible]右[illegible]村[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

此度申渡之趣如斯ニ候 右 銀座方可相達候人
数茂有之 名目ニ而 貸付方取扱候義ニ候 然上ハ
可致事 只今迄通り差置候ニ付 土地一番所之借用所可被
仰付候事と存候 東町奉行御材木方取扱入札申付

一 右者当時宗城之大坂 御陣屋御屋敷
取扱候大坂之蔵元 御勘定方
津之ハ御目付尾張御預ケ並 御蔵屋敷並会所
津留之節 御国之船入津之積荷 入附取扱

以後ハ関東御座ニ而相成 平常大坂出張
人数有之 並ニ支配之御役所
天保度大塩平八郎乱妨之節 御手当
於船場会所 御預り候 其後 御役所
取扱候 申渡之 文政年 郡付 御勘定 人数
等 御免之 右御取扱 候文政度 御目付
可取 目付 候 並 橋村 之 三千 石 而 之 場
取付 候 此 免 之 右 会所 毎度 当書 候 之 趣

[illegible]

[illegible]

服部文庫
イ17
1299
43158

[illegible]

和藏[illegible]

[illegible]

[illegible]

不[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

肥後[illegible]

新金六ヶ所防禦として当仕来り其上去ル子
四条東洞院西入町より小路[illegible]候得共 但し油[illegible]
一 此度七月右御[illegible]通[illegible]御[illegible]
場所[illegible]東洞院[illegible]ニ[illegible]
公儀[illegible]石御堀[illegible]門ニ有之候[illegible]
[illegible]人数御出張致し[illegible]場所ニ而[illegible]
[illegible]候[illegible]前条之[illegible]御[illegible]

仕御吟味ニ而当二百七十人ニ而場所割合之
一 繰出し候義右場所者御屋敷場所ニ而右之所
抱方之人数を当路当番[illegible]ニ
差出候ニ付 勤番ニ[illegible]深更
[illegible]堀小路京寺町[illegible]十二[illegible]
御沙汰[illegible]上り[illegible]
御[illegible] [illegible] 金西国衛[illegible]

[illegible]

二月

[illegible]

右丁卯二月晋山田幸兎[illegible]
相[illegible]必相[illegible]
辻七[illegible]
[illegible]

[illegible]

一萬石以上之領分ハ其職分ニ付今日元支配之役々並本領主へ出張中へ出可及
取計候儀ニ付此上支配之内右御預所之分松村藤蔵様御支配所并
御料所之分ハ御同人等御預所ニ而御取扱候得共其内御支配之面々
宗門御改之儀ニ付出張之上御吟味候様ニ被仰付候ニ付其段申上
申上候然ル處御尋之儀ニ付御答申上候旨去々年来委細申上候
御支配御料所之内御預所之分ハ右ニ付御懸ケ之儀ニ而其筋へ申
兼候御取扱候ニ付右之趣御尋ニ付申上候處御年来御預所之御儀ニ付
御取扱ニ付右御同人御支配所ニ而其節御吟味申上候其段申上
候様ニ付右之通御支配之内申上候處申上候

右様之出来候ニ付
退も不及時分

布[illegible]今度御用ニ付[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蒙異変 元中国事 関係除件

一 安政元年甲寅九月十八日 摂海ト黒船渡来
手領ト海岸ト一隊大坂ト一隊淀藩ト一隊兵庫
備兵ニ出張

但十月九日退帰ス人数引取

一 同年十月十五日 異国船 摂海ニ渡来
海手領ト海岸ト一隊兵庫ニ出張ス船ニ乗込
取

一 同年十一月十五日 於江戸 仏国人 右寺麻布海岸
西泉寺 大砲ヲ放ス 作法
一 文久三年癸亥四月十五日 姫路家ニ海岸

一　同年七月十八日四條家[illegible]
[illegible]軍隊一隊[illegible]

一　同年八月廿五日京都[illegible]
城[illegible]

一　同月廿六日大和國[illegible]
[illegible]領[illegible]

[illegible]

同廿七日大阪[illegible]一隊[illegible]
但十月十七日泉州[illegible]

一　元治元年甲子京攝間物議[illegible]
野口[illegible]山[illegible]
[illegible]境[illegible]一隊[illegible]大坂[illegible]一隊領

一　同年七月十九日長州人　閣下暴動[illegible]前書
平野[illegible]隊伊丹[illegible]陣[illegible]又補備[illegible]

一　同月廿五日西宮[illegible]一隊[illegible]
同年八月廿七日和國[illegible]入港[illegible]海岸[illegible]一隊

[illegible]

一　慶応元年乙丑九月十八日[illegible]

岸ノ一隊人数其外諸事之儀 伺之事

一 ㊂ 去十月十六日付ヲ以伺候ニ付

御上京ニ付テ可申上候 後ニアリ

明治元年戊辰正月 京伏見ニ而岸島刑部 於関東城内 頭

於境内 戦死之者之事

一 同月 横浜ニ而戦死之者 御仮埋 御埋葬致 

右ハ両所ニ而討死之者 御書付差出候 

~~右之由申上書付差出候~~

当方岸島刑部 酉ノ年 山崎関門之内

別ニ相違無之 堅固 備之事 兵部省

御沙汰之事

正月

橋井孝之助

此日出立之節

薩摩勤王之士 相違

霧島山ニ 当節 国 龍 数

薩摩 左右 同

一 長崎 右之者 進 之 龍 西京 道

其 猶 相 相 其 相違之 縁

三 文 根 当 文 当 取 都

此 国 相 御 之事

一 ㊂ 後之条々 同年三月 相 大坂 海岸

天覧 海岸 一隊 之事

一　同年四月十五日西宮出船　仰付藤人殿

出ス事

一　同月十五日大坂表ニ着船仕候

拾四日ニ郡中常村ニ何之通ニ

着船仕候　仰付ル事元和元年ニ

仰付ル人数ニ

七月一日ニ帰国仕候

但六月ニ大人数出張ニ

拾四日ニ大坂ニ着船

三　前文ノ

一　寛永三年丁卯十一月八日依　御上洛相撰月

御ノ少納言殿

日　おゝ小ゝ書改

一　同月十五日ニ西宮ヘ一艘着船事

但四之慶長元年五月ニ大坂表ニ出陣

ス山陽道ニ山ヲ下ル事ニ七月

十五日大坂ニ着船仕候

五人数

自　おゝ入

一　同月十七日ニ西宮ヘ出船仕候

御ノ少納言殿ニ仰付ル

服部文庫
イ17
1299
36

又

子壹拾五石　月仕送金
利払

合五子壹百拾五石余

年貢別余
月壹別出

一金拾百五

拾五年滿

十七年ヨリ

弐百子壹拾五年貢　石米百両

米子壹百五十石余

又

子壹拾五石　月仕送金
利払

合四千九百弐拾弐石余

年弐割四分
月弐割

一金七百五拾

寅年より

寅年八百九拾弐石弐分　石米高

巳年二千拾弐石余

拾五年滞

又

子年拾五石

月ゟ仕送金
利払

合四千百九拾七石余

年弐割
月寅年割米

一金七百五拾

拾五年滞

十七年ヨリ

十二万四千九百四拾三石余

内訳

米弐万壱千四百九拾石余　石米共同

又

金壱拾万五千石　内訳　金壱万両

利払

合七十万八百五拾石余

一日ハ五百五十五
一本ハ四百五十五

未年御公納

一金弐千両也
同
四千両也　伴丹
〆
千両也　内蔵下
四千九百両返
同　借入高

金六万弐千両也
同
〆
三万六千両也　伴丹
弐万六千両也　内蔵下
〆
此利
六千両九拾両也
[illegible]
[illegible]
四千両九拾両也　伴丹
[illegible]

金六百疋

二百疋　仲丹

壹百六十疋　中務下

壹利

六百四十九疋　第年寺

壹百疋　仲丹

二百疋　中務下

百疋　石山寺

六百疋　日住院

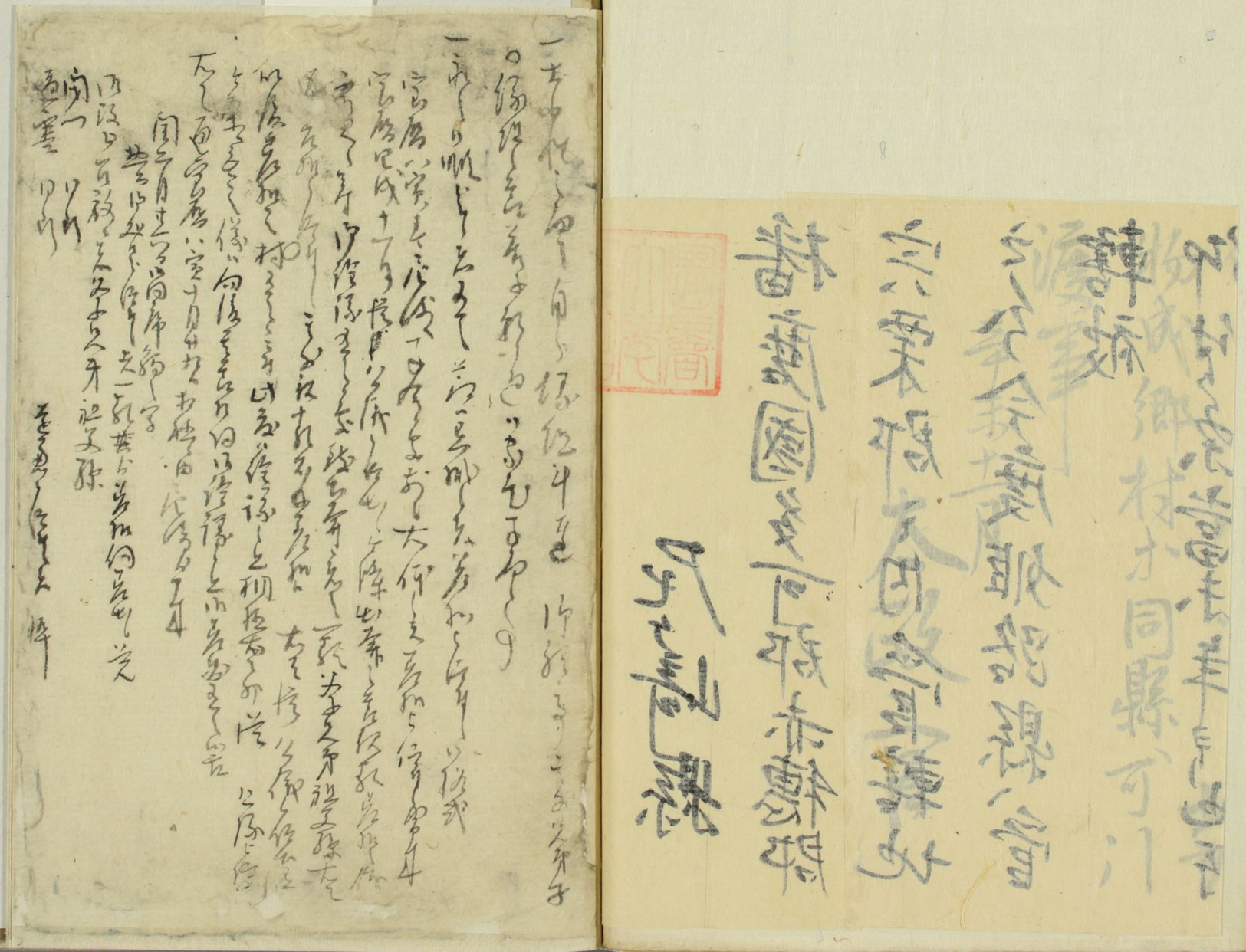
利孫高

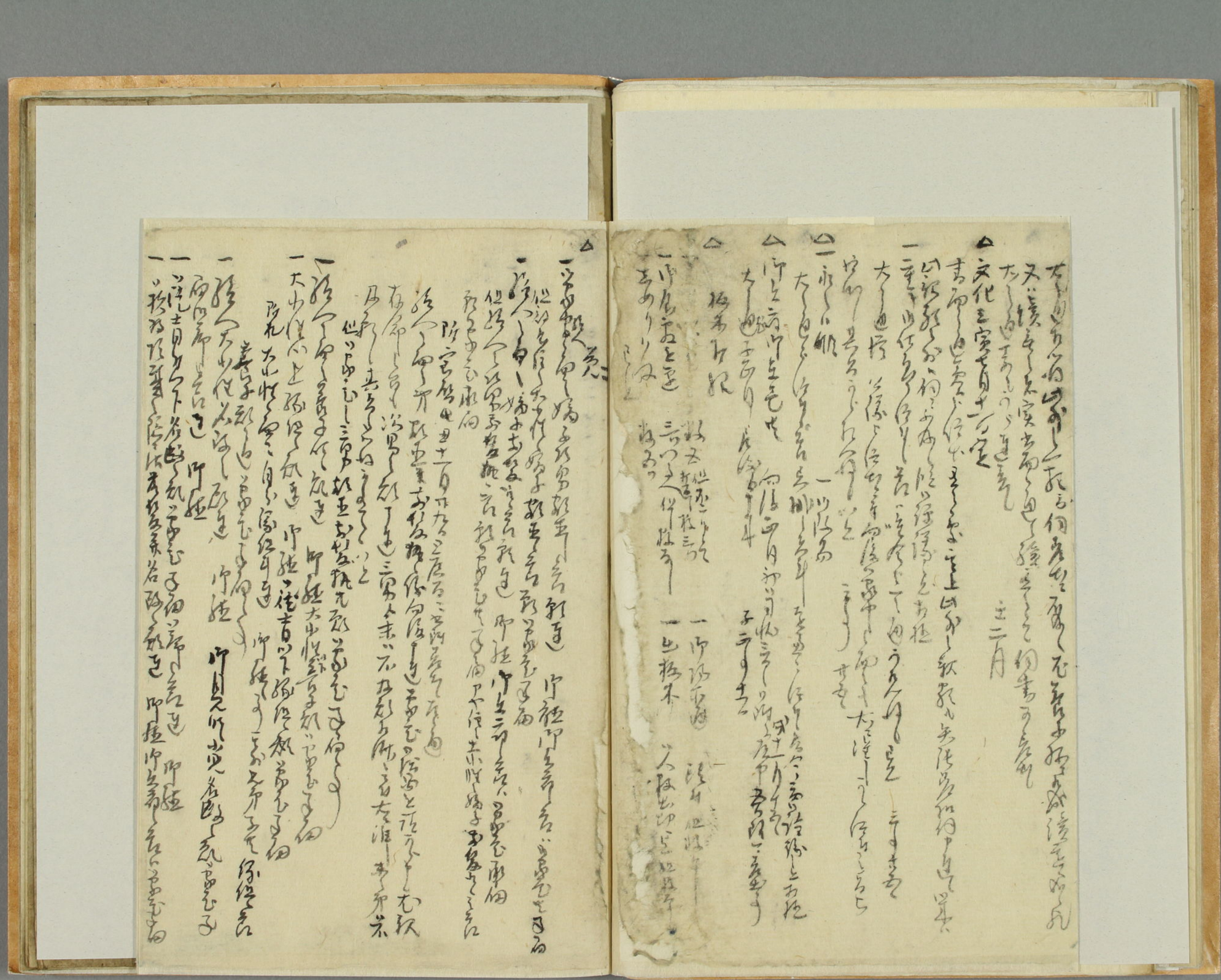
播磨國

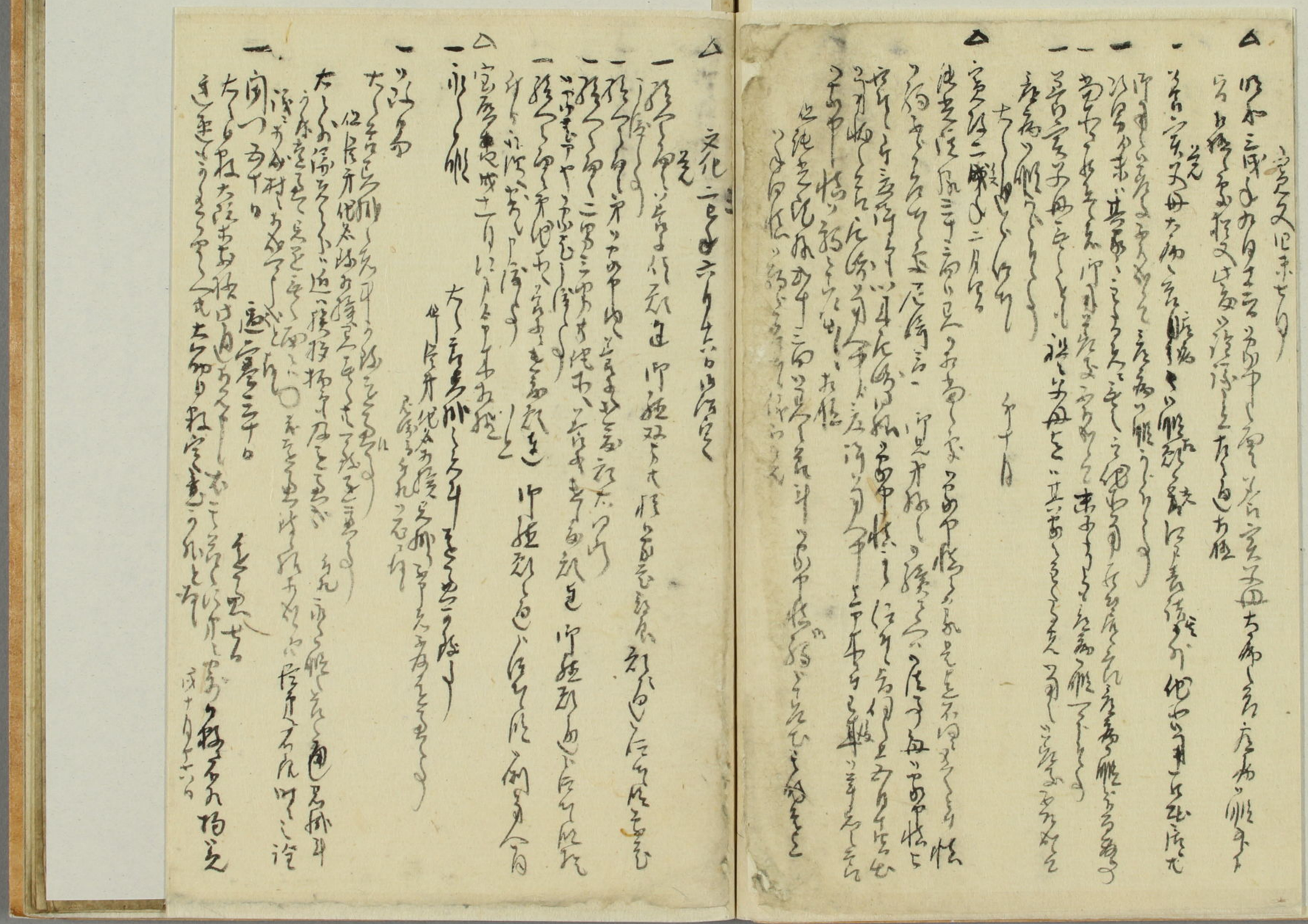
尼ヶ崎縣

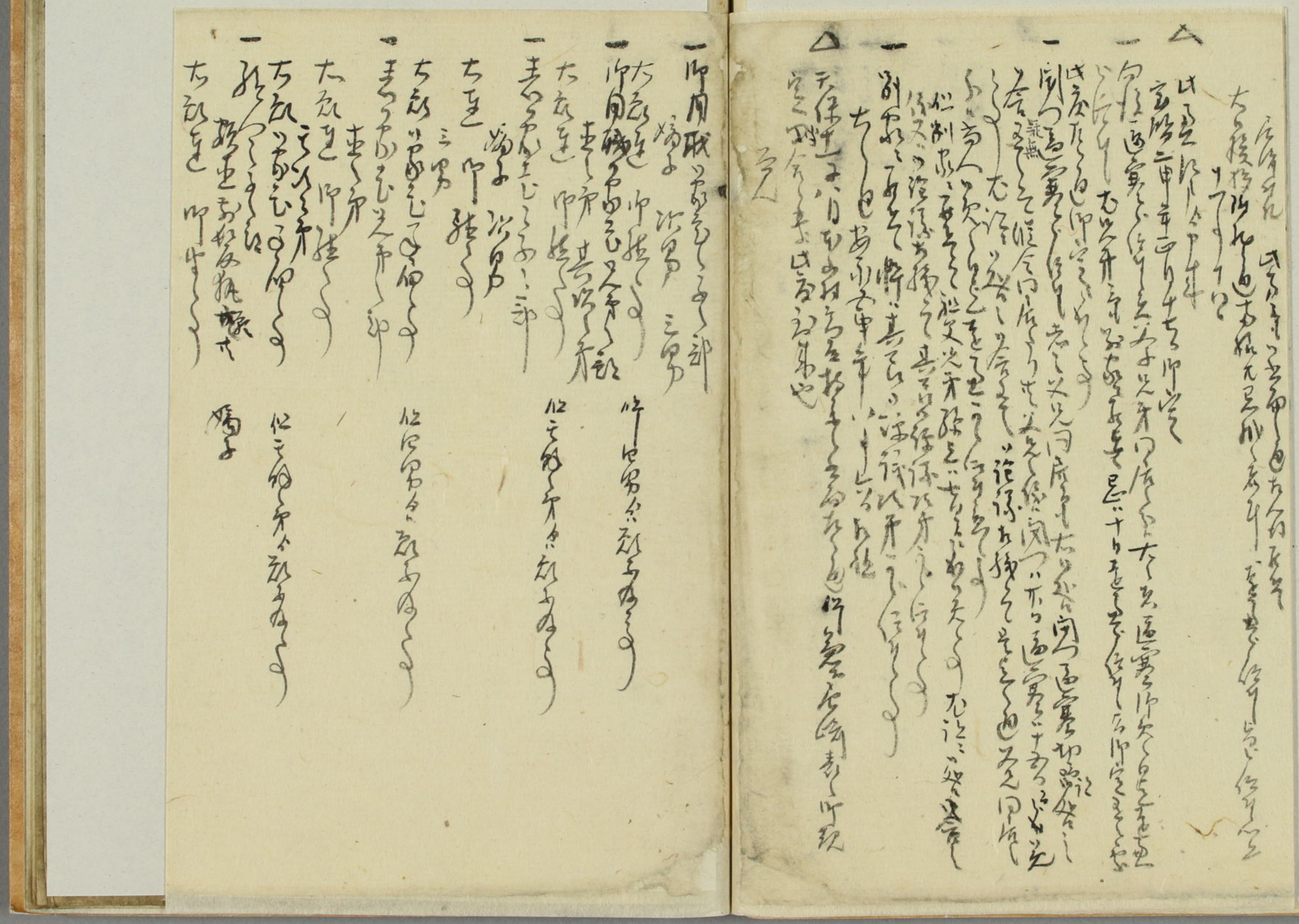
尼ヶ崎縣

播磨國多可郡赤穗郡
宍粟郡之内管轄地
之分今度姫路縣管
轄被
仰付候當未年より地所
物成郷村ハ同縣可川
渡事
辛未十一月
太政官









服部文庫
イ17
966

うるおひあり人こまれなるゆへの才智の徳ハ才智のほかなきハとてもおよはさる才智の
なしとも下に人才ありてハすくなし辛右言ハ刀剣を
知らすして鈍き物なりとも所詮学問ハ才ハ今ハ出世の事を仕立
上手ニ同利する名人ハ其の刀を研く事なし
さしても鈍刀なる物も上手なる研ハ同利ハ
されハ其ひとの学問ハ自然と是を述て
研上ても鈍き刃ハ上作を才智の利くれ
同ま中性ほとにハなるへし上手なる研同利
の功ある功者にて名刀と世にもてはやさるる中性下
しきまもせよまれの才前程の間をいふ中
刃によりつき人も生れつきたる才智の徳にん仁の器
ハ才智の功あるのちにても和らけひに才智の知恵にて
うるおひありて万人才ならハ是非も出来まするへき
治国の

おのれ鈍きものハ却て其の徳あるとも旨
にて所詮学問にこれなくてハ人才ハ出来まする
恭安院様御命書にて有用の学をあきらかにす
るへしと詩文の風流人となる事なかれ有用
武藝をもすさむ事なきよふにする武人となる
事をもいれとも千載の
御学言とも今の人々学者詩文人のまねをせん
より上の為にもならぬ事をしての学問ならハ
あやうく人才も出来かたし御本書にも歴々

久しく武の業術を
上古聖賢の道ゟ臣の事迄とりては古の道
ともに何事もよくいてを学問すれハ学問を
用ひするものなれハ生才学てハ害
にも成申候へしいへとも学問せねハ事便されハ
とて武藝をわすれかハ文弱にのミ於て
只今の形勢ハ一端を抽して斗の於て武
藝大りのあまても抽て入へからすに於て才を修
するをいふなり古ハ禮樂ならてハ治國も成就いたし
すらは此れも出来ハいたし只当時の主張也人
修すへき事とぞ存る △

十論語修身斉家治國平天下とあり（以下抹消）
其外書に在知人在安民有之

一 本朝ハ武藝専に行ふあひ人々実躰ニ申さへ
より中候ハ事も古格を守り誠にてすへし
うちに古来つとめ勤学を以て心ハ剣術研
究せんとして能きし事ハ武藝ハ刀槍を抜
さき一人の技として古来ゟの先を武芸と称し
ゑを挂く為に軍学指揮之学で備ふまさに天
文ハ諸士の学ふへき仕方なるまに習ひ
まてのものを学ぶを務めとし匹夫の業ハ研究せず
まれなるものとも弓馬を研究致すれハ足てすこし
経済して古今を通観し能兵術勇気ありて稲

[illegible]

一 詩文ハ法を用ひて[illegible]追[illegible]

の[illegible]ハ人[illegible]

[illegible]書にのゝ[illegible]歴史等[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 人[illegible]ハ[illegible]

之ヘし武[illegible]

不好ものと申すべし武のみちを立ててはむ
をろい業迄に易しぬきさるものは成就かた
故好むべし研究しをはさるものとなりへ
寺子忠信若敬遜謙の德の第一律度量
天文地理軍法の類の第二強勇
武に弓馬槍剣の第三強力
の好者にすぎて去るべき丈夫の業とぞ
れまでなれにかなる体に細細せ自
然と好むべきもの故にまた文武
好むべの教を研究して世の中に細細武

一

人とりなるものの人才成ぬ
只今の形勢にのりて熟考すべき文教急
仏者のみ只業隅の内に生涯と十年の
をしらずして光陰人々のつまり勤
ずして叶ぬ
御家中御扶持方一年に一度宛
分者にて扶持米に成ぬ
去れども当時は皆々情実にて去れ
心配なれ摩れ該扶持方の
情実にて候間中候と重底院内と中せ

中興の昇て久しからず南部ハ文教の守るとし内
之の在ニ以當の内に学校に広く書を備へ志
ある者ニおしけなし併を以松ら云事とす
古しハ何等一通りの手習ひの書物ハ
御上より御調へ遊学校ニ而下され武ハ従來百姓
之を在世する者へ嘆ハ取らる情なく[illegible]

但し書物ハ先日より世話役の[illegible]壱三人と[illegible]
おゐて書附等も[illegible]
[illegible]一旦上納し上而自[illegible]
[illegible]

一
文学の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]壱人

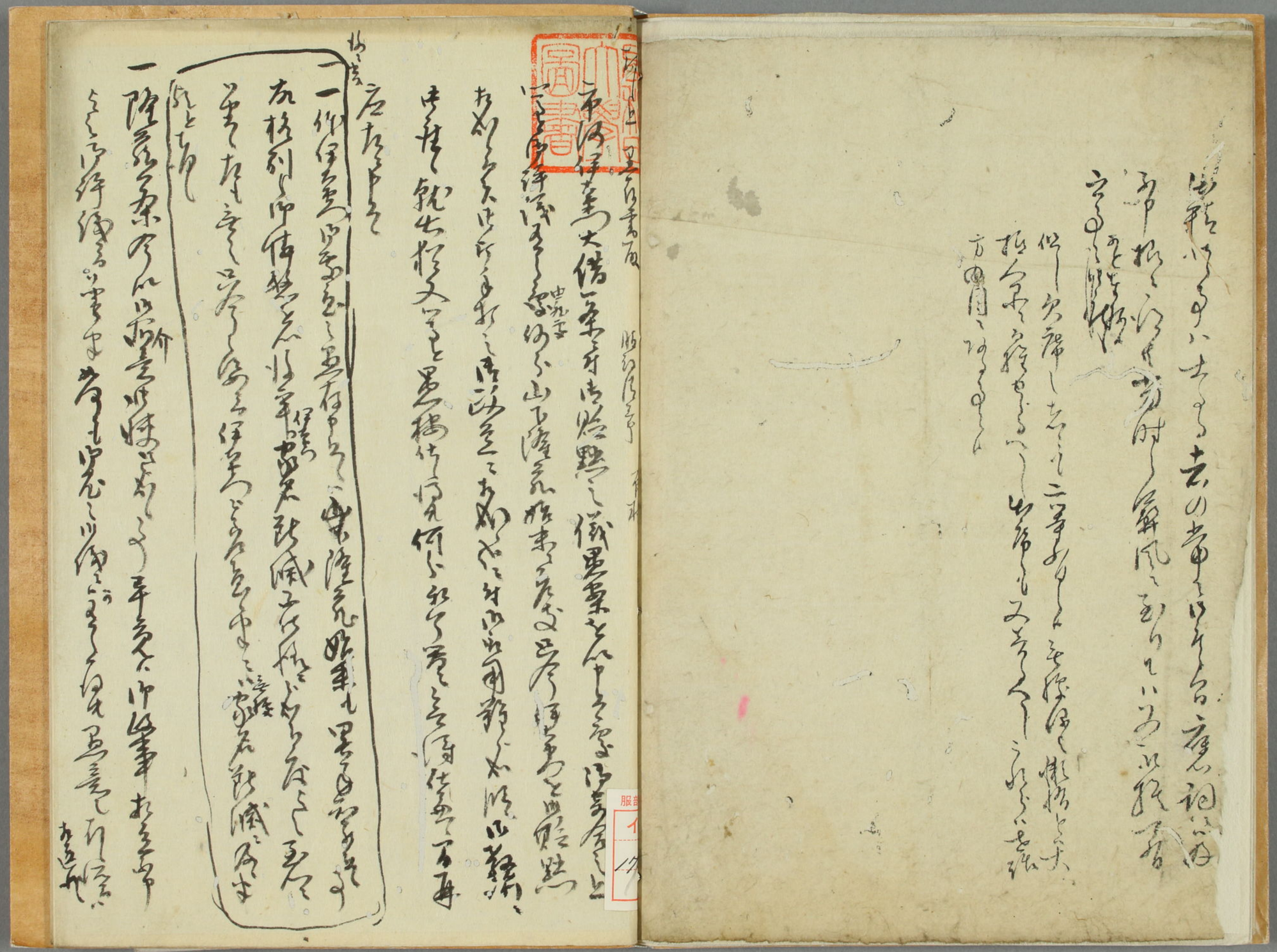
壱ヶ年ハ席ニ壱人[illegible]一ヶ年[illegible]
学者も精勤[illegible]世話方ニ而[illegible]
世話を[illegible]ハ壱ヶ年に壱度ッゝ二度[illegible]
[illegible]世話[illegible]も[illegible]
[illegible]

一
當時[illegible]も学問[illegible]若年の
[illegible]壱三人[別人扱方]何[illegible]
[illegible]ニ三人
扱方[illegible]世話方[illegible]
[illegible]
但[illegible]中の二男三男[illegible]
[illegible]

[illegible]

一 文武[illegible]事[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]内ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
以上[illegible]
[illegible]
又律上明律ニ

無官犯律

凡無官犯罪有官事発公罪亦得収贖紀録
罪官犯罪要官事発在任犯罪官以下笞杖以上
紀録直者事[illegible]杖以上比[illegible]
罪者紀録[illegible]事須追究明白但犯[illegible]
[illegible]

文武官犯罪

凡内外大小軍民衙門官吏犯罪該[illegible]者官収贖吏[illegible]
杖罪以上明立文案每年一考紀録罪[illegible]次[illegible]



[illegible]

文武官犯私罪

凡文武官犯私罪笞罪以下降級遠[illegible]
降二等八十降三等九十降四等俱解見任別叙杖六十降一等七十
遠[illegible]杖一百者[illegible]不叙
右明律以[illegible]
紀録[illegible]
罪[illegible]
[illegible]
[illegible]

左傳昭十四年叔魚摂理韓宣子断罰獄

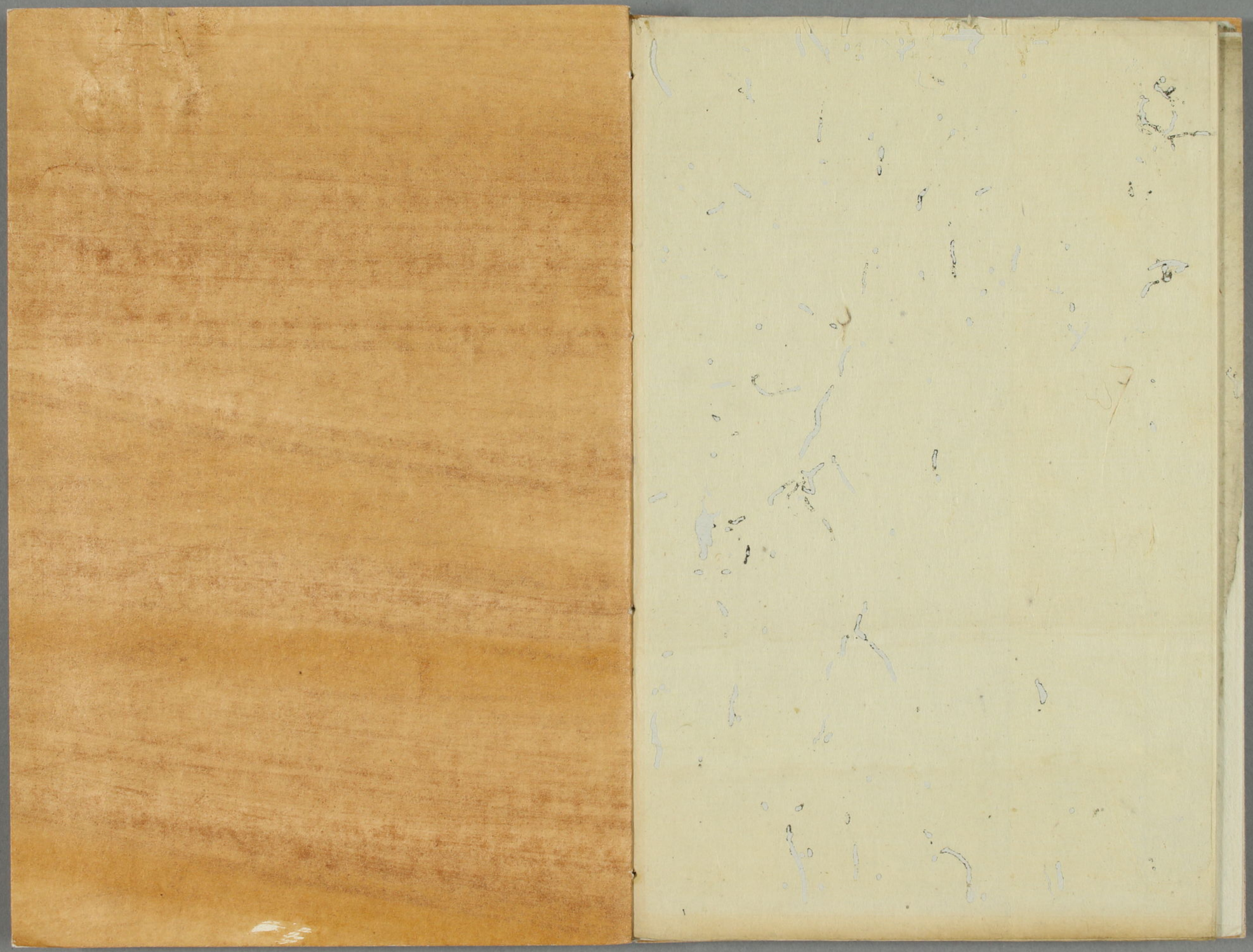
左傳襄六年司馬侯曰同罪異罰非刑也

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

別紙

一[illegible]